

# 令和2年度 学校評価アンケート分析結果

宮城県登米総合産業高等学校

## 1 調査対象

- ・生徒 487名 (回収率 98.2%) ※前年度(96.2%)
- ・保護者 487名 (回収率 74.3%) ※前年度(64.7%)
- ・教職員 76名 (回収率 100%) ※前年度(100%)

## 2 調査期間

- ・令和2年 11月19日～30日

## 3 調査内容

(1) 授業が工夫され、学習した内容が身に付く指導が行われている	(学習指導)
(2) 挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている	(生徒指導)
(3) 進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている。	(進路指導)
(4) 教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている	(教育相談)
(5) 部活動が活発に行われている	(部活動)
(6) 生徒会活動が活発に行われている	(生徒会活動)
(7) 有意義な学校行事がある	(学校行事)
(8) 地域の人と関わる機会を多く取り入れている	(特色ある学校づくり①)
(9) 専門性を生かすなど特色ある学校づくりに取り組んでいる	(特色ある学校づくり②)
(10) 災害・非常時の避難方法や連絡方法が伝えられている	(防災教育)
(11) 配布物などによって、学校の情報が適切に伝えられている	(開かれた学校づくり)
(12) 校舎やグラウンドなどの施設や設備が整備されている	(施設設備)
(13) 日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる	(いじめ問題)
(14) 環境美化に取り組んでいる	(環境美化)
(15) 学校生活は充実している	(総合満足度)

## 4 調査方法

- ・質問紙法

- ・項目別で「当てはまる」と「大体当てはまる」と回答した割合の合計（以下「肯定的評価」という）が高いのは、生徒は「特色ある学校づくり②」,「施設設備」,「開かれた学校づくり」と続き、保護者は「開かれた学校づくり」,「施設設備」,「特色ある学校づくり②」と続く。（下記参照）
- ・生徒の肯定的評価のうち、「開かれた学校づくり」が前年より7.2ポイント上回った。
- ・保護者の肯定的評価のうち、「教育相談」が前年より3.5ポイント上回った。
- ・「総合満足度」は、生徒で昨年度より5.6ポイント上回り、保護者の肯定的評価は、昨年度より1.6ポイント上回った。
- ・生徒、保護者、教職員それぞれの観点の違いから、肯定的評価が20ポイント以上乖離した項目は「いじめ問題」で、教員の評価に比べ保護者の評価が24.8ポイント下回った。
- ・肯定的評価が最も低かったのは、「いじめ問題」で、保護者の69.9ポイントであった。

《調査内容について前年度結果との比較増減》（％）

		【生徒】		【保護者】		【教職員】	
調査項目		肯定的評価	比較増減	肯定的評価	比較増減	肯定的評価	比較増減
1	学習指導	84.7	6.6	85.4	▲2.8	97.4	2.7
2	生徒指導	86.8	2.7	83.1	▲0.7	90.8	▲3.9
3	進路指導	90.6	4.6	82.6	▲3.3	94.7	1.3
4	教育相談	86.8	4.4	80.7	3.5	98.7	1.3
5	部活動	88.1	2.1	85.9	2.7	88.2	2.7
6	生徒会活動	78.9	1.0	80.7	0.9	89.5	4.0
7	学校行事	79.7	1.8	76.5	▲10.1	92.1	▲2.6
8	特色ある学校づくり①	83.1	▲5.4	79.0	▲13.4	84.2	▲11.9
9	特色ある学校づくり②	93.1	1.6	91.7	▲2.3	97.4	0.0
10	防災教育	86.8	2.3	82.9	2.8	98.7	10.5
11	開かれた学校づくり	90.8	7.2	92.8	▲1.7	97.4	4.0
12	施設設備	91.0	7.1	92.3	▲1.7	92.1	9.2
13	いじめ問題	76.6	5.3	69.9	1.1	94.7	0.0
14	環境美化	78.7	5.7	89.0	1.3	96.1	9.3
15	総合満足度	83.7	5.6	89.0	1.6	—	—

## 1. 授業が工夫され、学習した内容が身に付く指導が行われている（学習指導）

<分析>

【生徒】

・肯定的意見の数値が昨年度と比較し、6.6ポイント上昇し、初めて8割を超えた。コロナ禍で家庭学習のための課題、休校期間後の授業展開の工夫、ICT活用の充実等が要因と考えられる。

【保護者】

・肯定的意見の数値が昨年度と比較し、2.8ポイント下がってしまったが、コロナ禍の状況であっても8割を超えた。休校期間中の課題等やG-suiteの取り組みを通して、学校での学習内容が保護者の目にも入る状況が多くなったためと思われる。

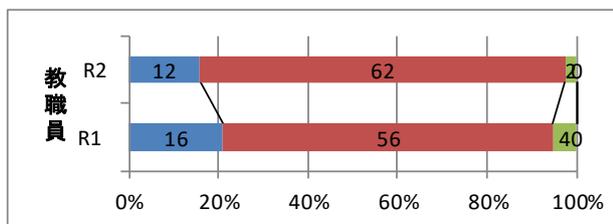
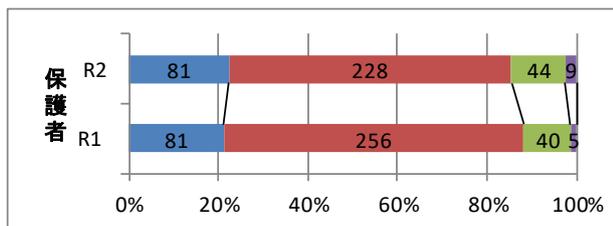
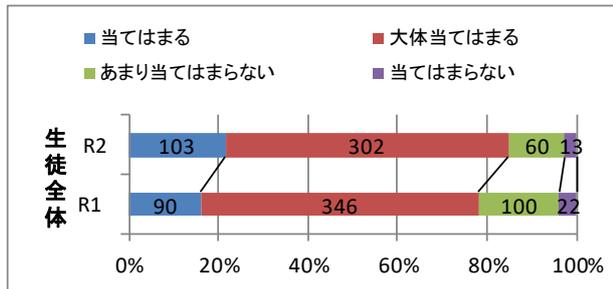
【教職員】

・肯定的意見が昨年度より2.7ポイント上がった。ICTを活用した授業改善や工夫を実施している環境であると感じている。

<改善に向けた取り組み>

落ち着いた学校生活を目指し、「授業スタンダード」を生徒・教員の行動目標として取り組んできた。多くの生徒においては落ち着いた学校生活を送ってきているものと思われるが、一部思わしくない授業態度の生徒が見受けられ、落ち着いた授業展開が困難となる場面も多々あった。コロナ禍によって約2ヶ月間の休校期間があったことも落ち着いた要因としてあると考える。

そうした中で、学習指導における肯定的意見が8割を超えていることは喜ばしい結果だと感じている。ICTの活用や生徒の実態に即した指導の工夫などの授業改善の取り組みを各教科・科目で行っていただいたことが要因だと考えている。「授業がわかる」割合や「家庭学習時間」の確保に対する数値目標はすべて達成することはできなかったが、向上しているものを維持継続しつつ、学ぶ意欲を引き出す指導や支援、方策を次年度以降も重要な課題として捉えていきたい。



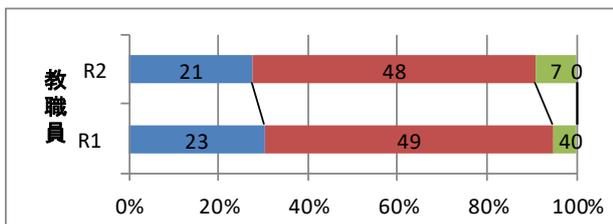
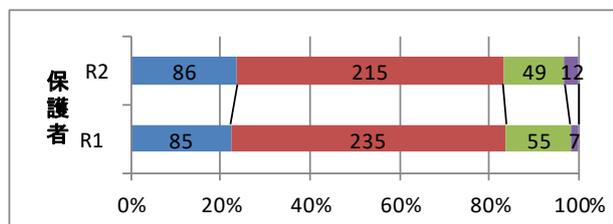
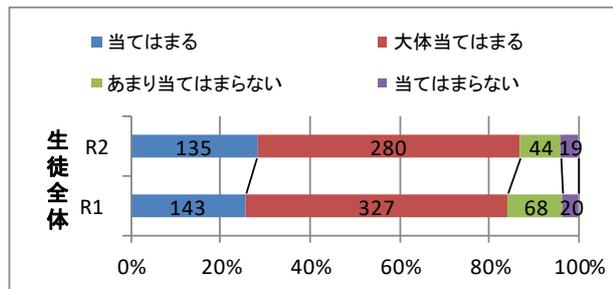
## 2. 挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている（生徒指導）

<分析>

肯定的回答が生徒・保護者において80%を超えている。登米総STD確立に向けた取組において、「愛」スローガンを掲げた取り組みや、図書部の全面的協力を得ての遅刻指導、生徒指導部による朝の立ち番指導などこれまでの学年での指導に加え、学科からの協力もあって効果が現れてきた。また、学校メール配信による連絡や、校長室便りにおいて学校の取り組みの紹介や生徒の活躍等の情報発信も一助となった。

<改善に向けた取り組み>

登米総STD確立に向け、朝の昇降口指導を軸として、教育活動の様々な場面において地道に全職員で取り組む必要がある。生活習慣の確立に向け生徒が見通しを持ちながら行動できる支援が必要である。



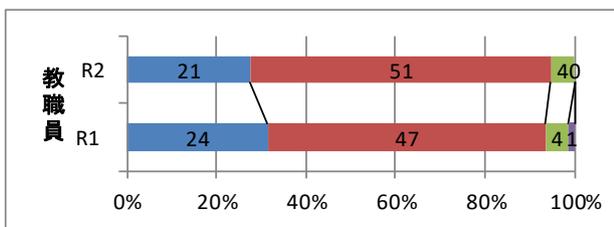
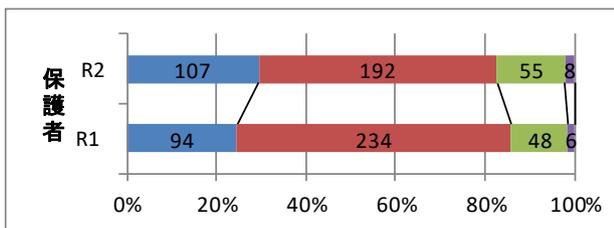
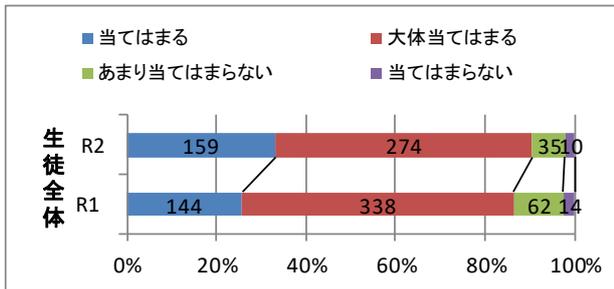
### 3. 進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている（進路指導）

<分析>

「進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている」という質問に対し、肯定的評価「当てはまる」・「大体当てはまる」と回答した割合が、生徒90.6%，保護者82.6%，教職員94.7%となっており、本校の進路指導に対して概ね評価いただいていると考える。これは、各部、各学科、各学年、各教科等での学習活動および常に進路を意識した指導を継続して行っていたことが大きい要因と考える。また、コロナ禍の中、中止となった行事もあったが、密を避けるため回数を増やしたり分散したりするなど工夫して各種進路行事を実施した。これらの進路行事も生徒の進路目標の明確化へ繋がったと考える。また、生徒、保護者に対しては各種進路行事実施概要の学校ホームページへの掲載や進路NEWSの発行など積極的に行っており、本校の進路活動に対する共通理解、進路指導の協力を得る要因になっていると考える。

<改善に向けた取り組み>

- ・今後も各学年の進路担当、就職担当を決め、進路行事の実施内容について学年との連絡調整を密に行い、きめ細やかな指導や実施内容に反映できるように努めていく。
- ・各部、各学科、各学年、各教科と連携を図り、生徒の進路選択までの過程、または進路達成までの適切な指導体制や流れになるように改善していく。
- ・進学指導、就職指導について適切な指導が行えるように、生徒、保護者、教職員が、さらに共通理解を図り、生徒の立場に立った進路達成までの進路指導計画の構築、体制を整え進めて行く。
- ・生徒、保護者に進路指導室の解放や活用を進め、さらに積極的に進路情報の発信に努めて行く。



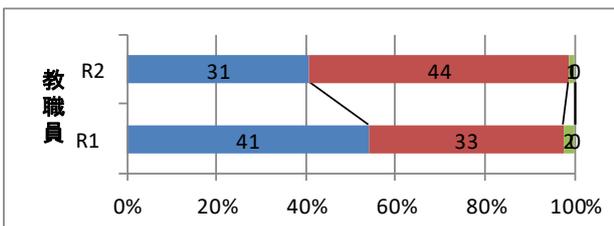
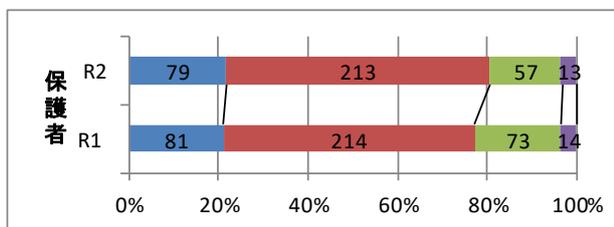
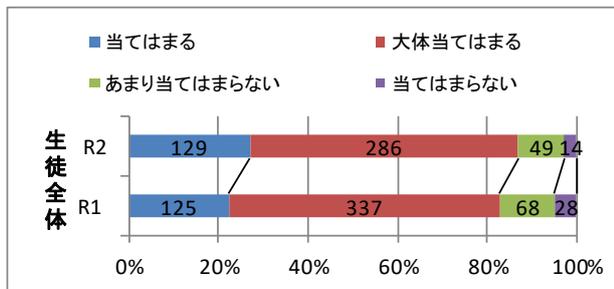
### 4. 教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている（教育相談）

<分析>

肯定的意見が生徒86.8%(4.4増),保護者80.7%(3.5増),教職員98.7%(1.3増)という結果であった。今年度はコロナによる休校で年度が始まり、新たに迎えたスクールカウンセラーの紹介や、カウンセリング案内の周知徹底が行き届かないことが心配されたが、担任始め多くの職員が生徒の発するメッセージを察知しカウンセリングにつなげた。カウンセリングを継続する生徒も多く、課題解決しながら生徒本人の状態に合わせて利用することが多かった。生徒指導案件も含め、カウンセラー、ソーシャルワーカー、担任や学年の先生方など複数の方が関わることで生徒を支援できたことがプラスの評価につながったと思われる。

<改善に向けた取り組み>

- ・次年度はスクールソーシャルワーカーを保健厚生部担当とし、情報共有や連携をより細やかに行いたい。



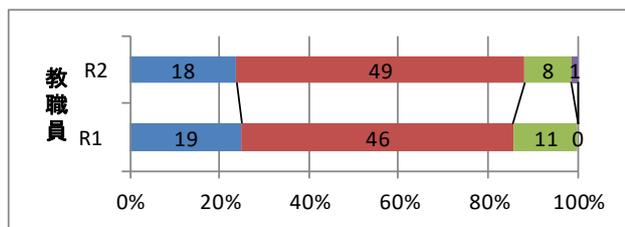
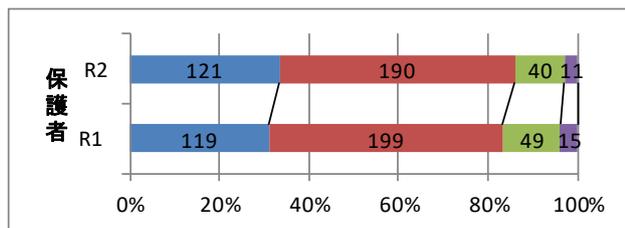
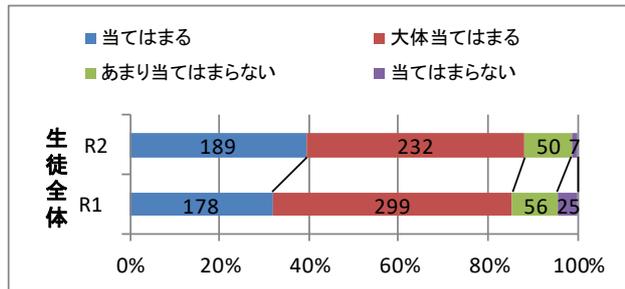
## 5. 部活動が活発に行われている（部活動）

### <分析>

肯定的回答が生徒2.1%、保護者2.7%、教職員2.7%増加となり、いずれにおいても増加する結果となった。今年度は新型コロナウイルスの影響で、大会が中止になったこともあり、上位大会に出場できる部活は少なかったが、空手道部が東北選抜大会の出場を果たした。この状況下においても前向きに、各部でできる活動が続けたことが今年度の肯定的回答の増加に繋がったと考える。

### <改善に向けた取り組み>

次年度も部活動への積極的参加を呼びかけ加入率の増加を目指し、各部が上位での結果を残せるように部活動数・部費の割り振りなどを検討する。年度初めには部活動紹介を充実させ、部活動登録まで生徒会からの呼びかけや部員等による勧誘活動を実施する。また、新型コロナウイルスの予防にも努めながら、部活動を活発的に実施していく。



## 6. 生徒会活動が活発に行われている（生徒会活動）

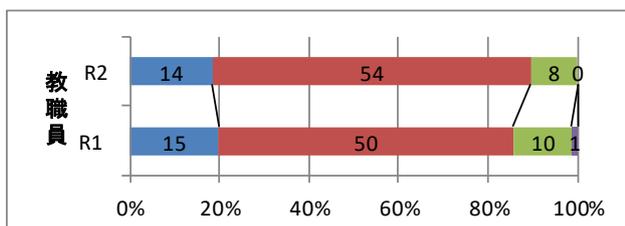
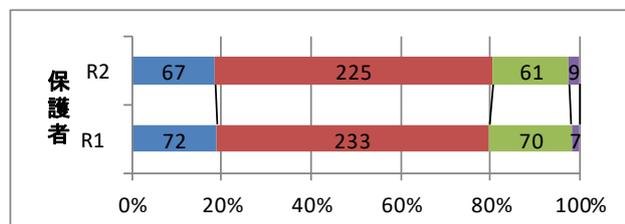
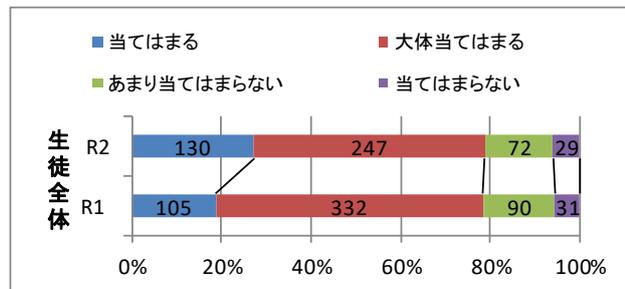
### <分析>

生徒会活動について肯定的な評価が80%を超えている。特に生徒の評価は昨年よりも高くなっている。コロナウイルスの影響があったものの、文化祭やスポーツ大会などを工夫して行ったことが良かったのではないかと考える。

### <改善に向けた取り組み>

生徒会活動の周知方法の改善、文化祭等では生徒への周知が遅れ、かつ全体にうまく伝わっていなかった。全校生徒に伝わるよう、放送を行う、生徒会執行部が各クラスに説明に行くなど工夫していく。

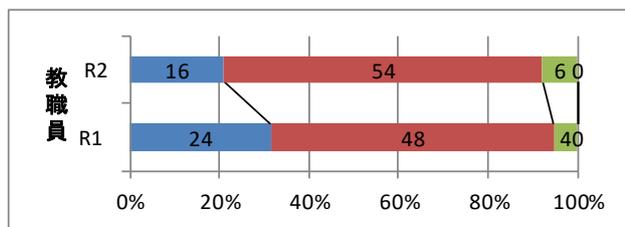
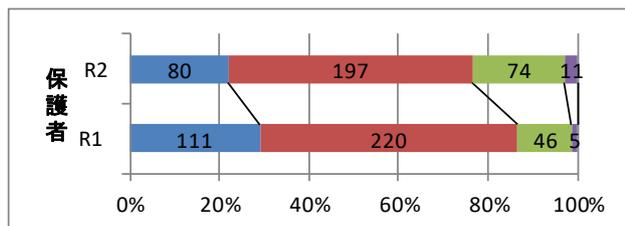
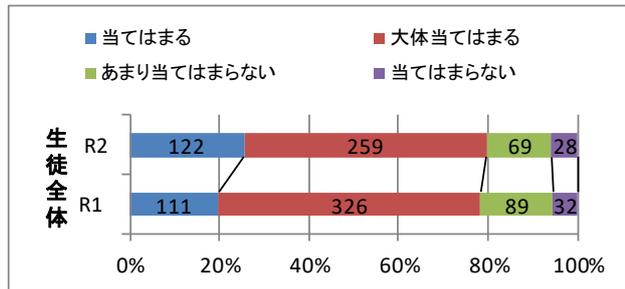
委員会とのつながりを強化する。



## 7. 有意義な学校行事がある（学校行事）

<分析>  
生徒の肯定的回答が昨年度より上昇した。

<改善に向けた取り組み>  
生徒自ら主体的に活動できる環境を、これまで通り維持するためにLHRの計画的な実行が必要である。

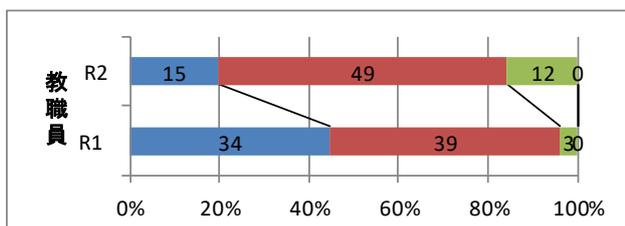
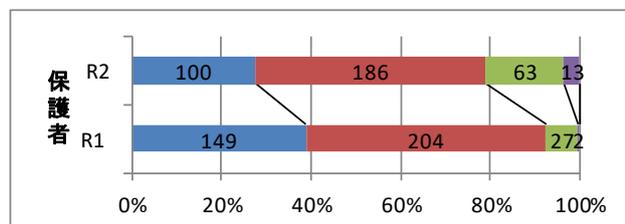
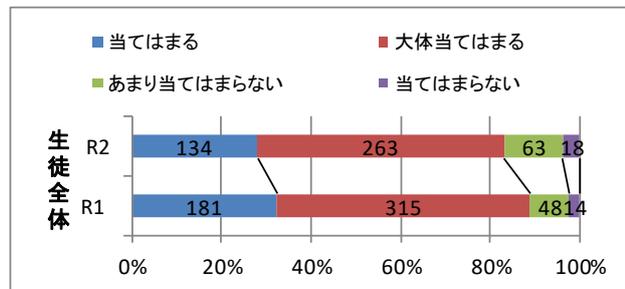


## 8. 地域の人とかかわる機会を多く取り入れている（特色ある学校づくり①）

<分析>  
肯定的意見の割合の推移(昨年度→今年度)  
・生徒：88.9%→83.1%  
・保護者：92.4%→79.0%  
・教職員：96.1%→84.2%

いずれにおいても肯定的意見の割合が大きく下降した。コロナ感染症が要因であるといえる。これまで様々な地域連携を行い、地域産業への貢献や実践的教育に向けた取り組みの実現を目指し、さまざまな活動が軌道にのっていた状況であったが、今年度はほとんど実施することができなかった。本校の特色ある教育活動である産業基礎や起業実践等も、多くの制限がある中で学習することとなり、可能な範囲での活動を模索する1年となった。

<改善に向けた取り組み>  
社会情勢が回復し次第、例年同様取り組んでいく。



## 9. 専門性を生かすなど特色ある学校づくりに取り組んでいる（特色ある学校づくり②）

### <分析>

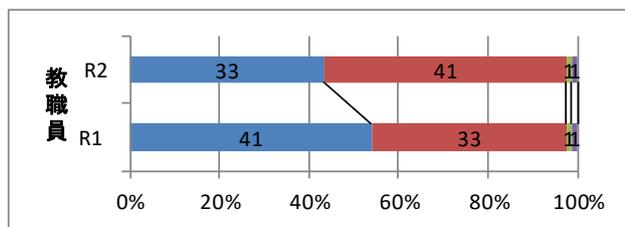
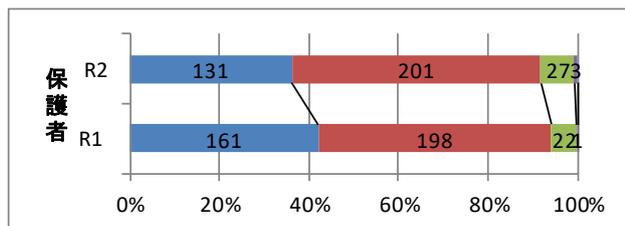
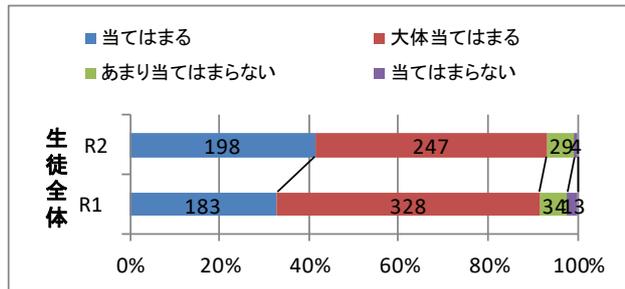
肯定的意見の割合の推移(昨年度→今年度)

- ・生徒：91.6%→93.1%
- ・保護者：94.0%→91.7%
- ・教職員：97.4%→97.4%

各学科の専門性をいかした教育活動が十分に行われ、生徒も教職員も特色のある学校づくりに取り組むことができていると捉えている。保護者において肯定的意見が3%下降したのは、コロナ感染症の影響で行事の中止等あり、様々な活動が外部に届きにくい状況にあったことが要因のひとつではないか。しかし、割合としては十分高く、目的は達成できていると思われる。

### <改善に向けた取り組み>

今年度同様取り組んでいく。



## 10. 災害・非常時の避難方法や連絡方法が伝えられている（防災教育）

### <分析>

肯定的意見の割合の推移(昨年度→今年度)

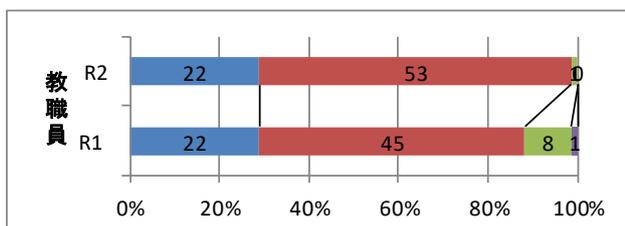
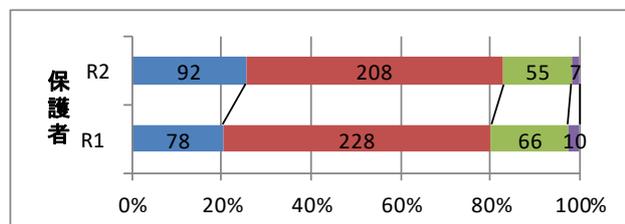
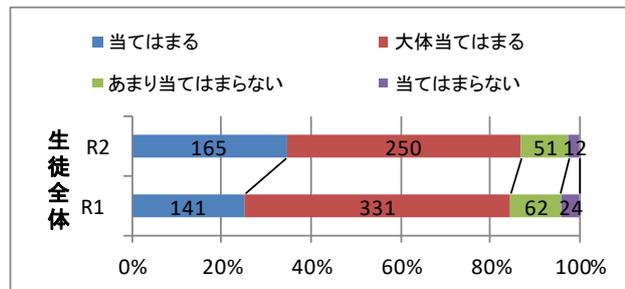
- ・生徒：84.6%→86.8%
- ・保護者：80.1%→82.9%
- ・教職員：88.2%→98.7%

いずれにおいても肯定的な意見の割合が上昇した。

今年度はコロナ感染症の影響から、避難方法や避難経路、避難場所等を変更した防災避難訓練であったが、そのような中でも冷静かつスムーズに行うことができた。例年と異なることで反省点も多々見られたが、むしろそれが臨機応変な対応の必要性を感じることもあった。また、各HRや講話において防災意識を高めるような指導ができたことも要因と考えられる。通年において、一斉メール配信もスムーズであり、災害時の連絡方法としても活用できる状況にある。さらに、今年度は保護者の協力を得て「緊急連絡・引き渡しカード」を作成したことも良い取り組みのひとつであった。

### <改善に向けた取り組み>

本校の立地環境としては、災害の可能性が比較的に少ない地域といえるが、生徒が広範囲から通学している状況を考えると、在校中のみならず通学時における安全について考えていく必要がある。地域防災との連携が不十分であり、防災マニュアルにおいても不足が見られるので、早急な改善を目指す。



## 1.1. 配布物などによって、学校の情報が適切に伝えられている（開かれた学校づくり）

### <分析>

肯定的回答は生徒が90.8%で、昨年より7.2ポイントと大きく上回った。保護者においては92.8%と1.7ポイントの減少となったが、調査項目の中では昨年に続き、1番の高評価となった。教職員では前年度が97.4%で、4.0ポイントの上昇となった。

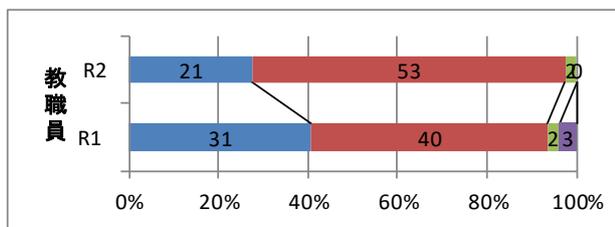
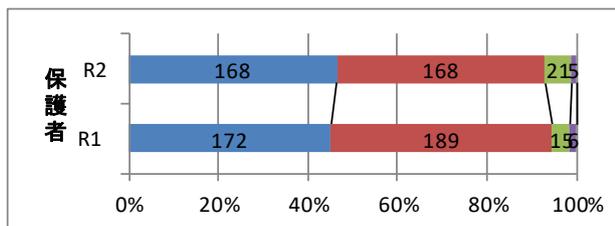
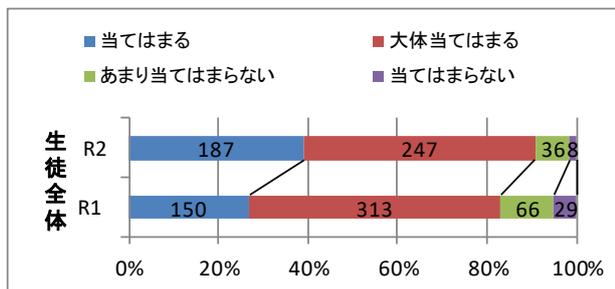
また学年ごとに見ると、1年生94.3%、2年生87.6%、3年生86.6%と多少の格差がある。「学校だより」をはじめ各種便りの発行、生徒・保護者へのメール配信に加えて、学校HPやブログの更新、さらにコロナ禍にあって、ICTの活用も積極的に行われるようになった。また、今年度はリモートによる会議の実施など、多くの場面で工夫がなされ、情報を適切に伝えることができたと言える。例年、紙媒体の情報が届かないという声が保護者から聞かれることもあり情報発信の際、併せてメールも配信した。

### <改善に向けた取り組み>

結果を見れば、昨年度より、情報量としては十分なレベルに達してきたと思われる。これからは必要な情報がすばやくタイムリーに生徒や保護者のもとに届けられるようにしたい。

メール・ホームページ・情報紙といった媒体を適切に使い分けが必要になる。特に配布したプリントの扱い方については、さらに指導していきたい。

今年度はコロナ禍の状況もあり、昨年度までと簡単に比較はできないが、保護者より学校に参観する機会が殆ど無かったので、様子があまり分からなかったという声もあった。学校の情報はICTを存分に活用するなど、タイムリーにその様子を伝えられる努力が必要である。



## 1.2. 校舎やグラウンドなどの施設や設備が整備されている（施設設備）

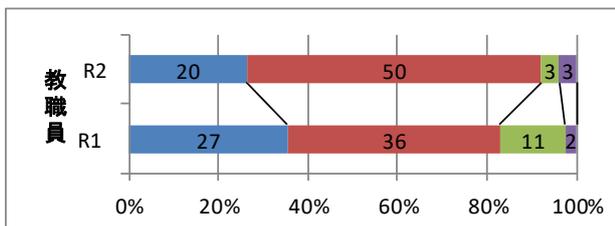
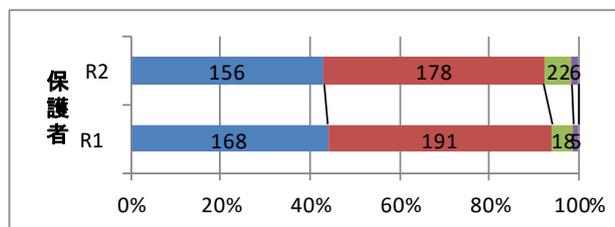
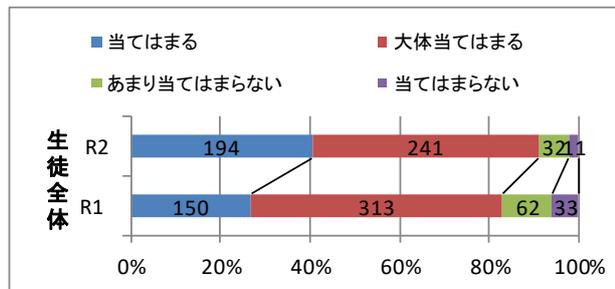
### <分析>

肯定的評価が、生徒・保護者・教職員とも90%を超えているが、保護者の評価が昨年度より1.7%低くなっている状況である。安心して生活できる施設を望んでいると思われる。

新しい建物であるがこまめに点検等を行い維持管理に努める必要がある。

### <改善に向けた取り組み>

- 普通教室のエアコン設置は、現在、契約が完了し施工の準備を進めている。令和3年秋の完成及び供用を予定している。
- 職員室前等の雨漏りについては、年度内に補修予定である。
- その他施設の修理等は、関係機関と協議を進め臨時又は年次計画により改善を図る。
- 設備の改修等は各科長と相談し年次計画等により更新を進める。
- 駐輪場の床面が滑りやすい件については、県教委への工事要望に上げているところである。



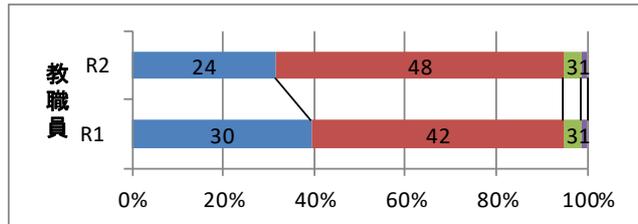
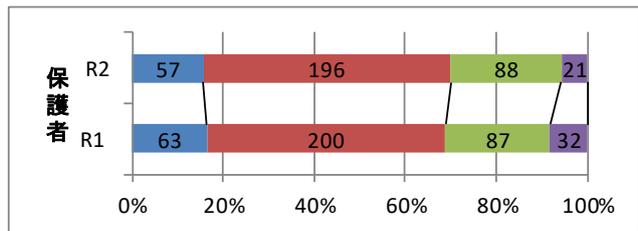
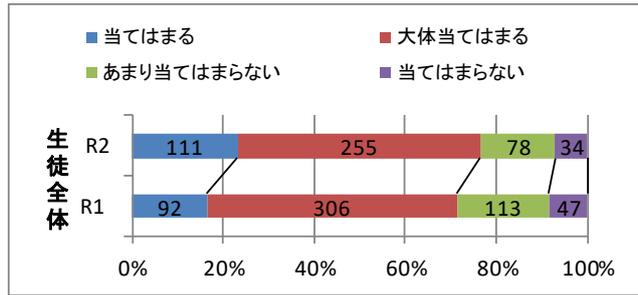
### 1.3. 日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる（いじめ問題）

<分析>

肯定的回答が生徒、保護者で昨年よりわずかではあるが上昇となった。しかし、保護者の30%、生徒23.3%が否定的回答となった。今年度は7月から奇数月にアンケートを実施し、案件に対応し解消されてきたが、否定的回答の中にも潜在的ないじめがあることも懸念される。

<改善に向けた取り組み>

いじめは早期発見・早期対応が基本である。潜在的ないじめに対して我々教職員が生徒をよく観察しながら積極的に生徒指導していくことが重要である。定期的にいじめアンケート調査・生活アンケート調査を行い、生徒が訴えやすい環境作りに力を入れたい。落ち着いた環境でアンケートに解答できるよう、時間帯なども工夫したい。



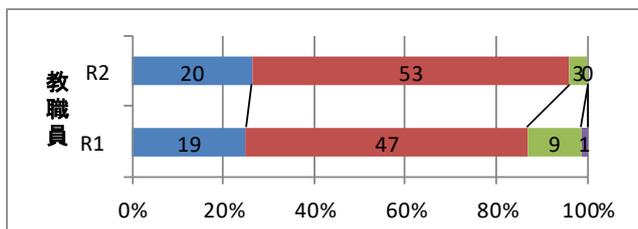
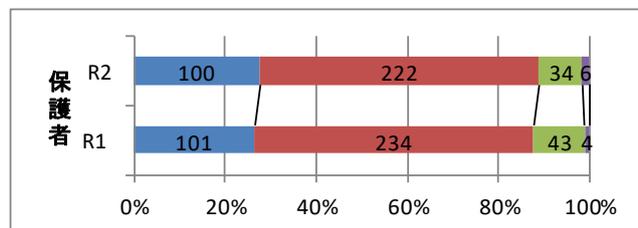
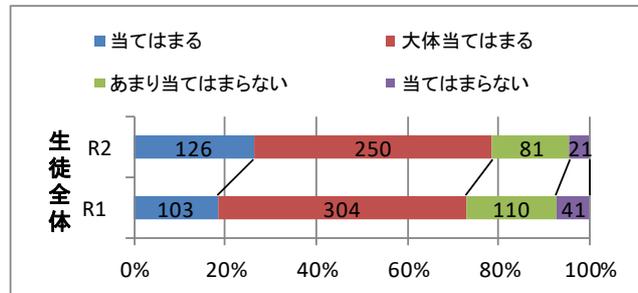
### 1.4. 環境美化に取り組んでいる（環境美化）

<分析>

肯定的意見が生徒78.7%(5.7増),保護者89.0%(1.3増),教職員96.1%(9.3増)という結果であった。コロナ対策もあり、消毒や拭き掃除を毎日行った結果、校内の環境美化・衛生保持に貢献できたと思われる。生徒たちも積極的に清掃活動に取り組み、また、年間を通して階段手すりや食堂・自動販売機の放課後消毒に協力した部活動もあった。

<改善に向けた取り組み>

次年度は保健委員をもっと活用し、今後も環境美化に努めていく。



## 15. 学校生活は充実している（総合満足度）

### <分析>

肯定的評価は生徒が83.7%（5.6ポイント増）と高水準を保ち、保護者が89.0%と前年度から1.6ポイント上昇した。

昨年度と同様に、これまでの高評価を継続しており、「魅力人気ナンバーワンの登米総！」を合言葉に「登米総スタンダード」を掲げた生徒職員の取り組みが、徐々に保護者にも理解されてきたものと考えられる。また、生徒の調査項目の殆どが昨年度に比べて上昇していること等から、コロナ禍において、様々な場面において制限がある中、工夫された取り組みが評価されているものと思われる。

生徒の評価を詳しく見てみると、男女別の格差（男子85.2%：女子76.0%）が9.2ポイント、学年別の格差（1年87.1%：2年79.5%：3年80.6%）が7.6ポイントとなっている。昨年度と同様に、女子の評価がやや男子より下がる傾向が続いている。だが格差は年々小さくなっている。コロナ禍の中でも、学習や部活動で明確な目標を持って取り組んでいる生徒ほど、より学校生活に対する充実感を持っていると思われる。

### <改善に向けた取り組み>

学習や部活動に対する生徒一人一人の意欲の変化に対して、関係職員間で情報を共有して丁寧に対応するなど、生徒がさらに充実した高校生活を送ることができる環境を工夫し、提供できるよう努力していきたい。

